

いはらき歴史通信

第118号

2026(令和8).3.1

「いはらき」新聞から戦争時代の太子を知る

明治二四年(一八九二)七月五日に創刊された「いはらき」(現茨城新聞)は、茨城県内外の情報を伝える地方紙として、長い歴史を持っていきます。紙面に掲載された様々な記事は、後世に生きる私たちにとって、過去の茨城県内外の出来事を記した貴重な記録でもあります。そこで、私たち太子町歴史資料調査研究員は、「いはらき」新聞に掲載された太子町関係記事の収集に努めており、史料集の編纂を進めてまいりました。そしてこのたび、「いはらき」新聞に掲載された昭和一三年(一九三八)から同二〇年までの太子町関係記事の表題を年代順にまとめた『太子町関係「いはらき」新聞記事表題索引目録(三)』が完成いたしました。

『太子町関係「いはらき」新聞記事表題索引目録(三)』は、明治二四年(一八九二)から大正一二年(一九二三)の記事を対象にした(一)、大正一三年から昭和二年(一九三七)の記事を掲載した(二)に続くものです。本史料集が対象とする昭和一三年から二〇年という時代は、日中戦争が本格化し、日本が米英開戦へと突き進む戦争の時代でもありました。国民の多くが戦地に赴き、銃後の暮らしも戦争一色に染まっていく中、太子地域も戦争とは無縁ではられませんでした。

本史料集には、当時の「いはらき」新聞の表題がまとめられて

おり、それを眺めるだけでも当時の世相が伝わってきます。連日「増産」や「挺身」の文字が並ぶ記事の中から、奥久慈の資源である木材や炭、太平洋沿岸地域での石炭の増産に励む「山の戦士」の活躍が報じられています。また、当時の太子地域ならではの動きである、満洲への分村移民や他地域から疎開してきた人々の受け入れ記事も見られます。徐々に戦況が悪化してくると、連日のように太子地域出身の戦死者が紙面に名前を見せるようになります。

このような表題索引目録を手がかりに、過去の「いはらき」新聞の記事を閲覧すると、当時の世相をより具体的に知ることができます。過去の「いはらき」新聞記事は、水戸市内の茨城県立歴史館などでご確認いただけます。

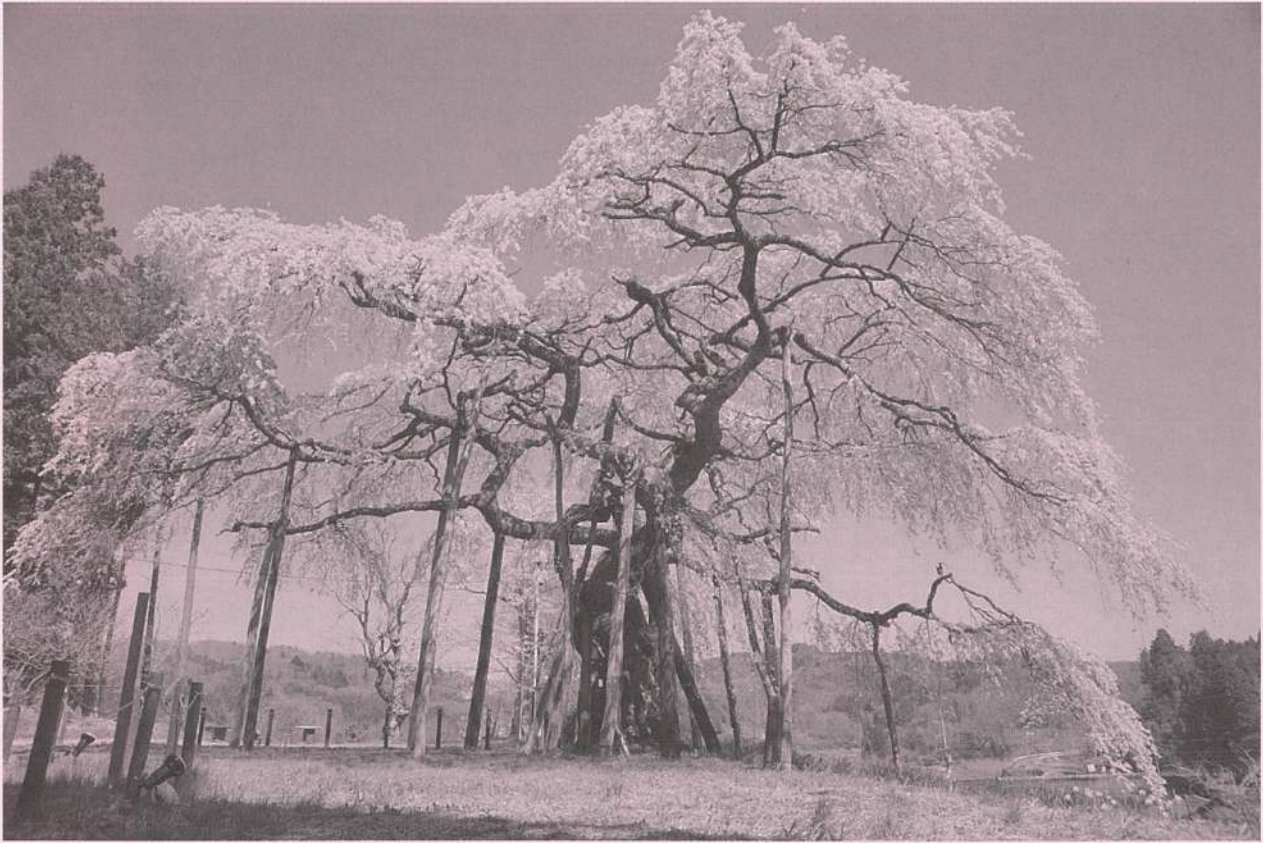
『太子町関係「いはらき」新聞記事表題索引目録(三)』は冊子の形での販売は行っておりませんが、太子町ホームページ内で公開しています(閲覧先は下記二次元コードをご参照ください)。また、表題索引目録(一)・(二)の電子公開も始めました。これらは、記事表題の文字検索も可能なので、目当ての記事を探しやすくなっています。インターネットでの閲覧が難しい方向けに、太子町立中央公民館内歴史資料室・図書館「プチ・ソフィア」(太子町立中央公民館別館図書室)に印刷したものを配架しているのです。そちらもご利用いただけます。

戦後八〇年を過ぎた今、戦時中の太子の姿を体験された方はごくわずかとなってきています。そうしたなか、本史料集を通じて出合う「いはらき」新聞の記事は、戦争時代の太子を語る貴重な証言となります。多くの方にご利用いただけることを心より期待しています。

(藤井達也)



『太子町関係「いはらき」
新聞記事表題索引目録
(一)～(三)』掲載先二次
元コード



小生瀬地蔵桜

区分・種類 大子町指定天然記念物（第二十一号）
指定年月日 平成二十六年七月一日
所在地 大子町大字小生瀬三八二七―一
管理者 小生瀬地蔵桜保存会

小生瀬の小高い丘に、竜の骨が秘蔵されたという伝説がある八竜山地福寺の寺跡があり、現在は、地元有志により子安地蔵堂が祀っております。小生瀬地蔵桜はその境内にあり、樹齢五百年と伝えられるシダレザクラの巨樹で、樹高は十・五メートル、根本周囲は五・一二メートルあります。四方に伸びる枝は隆々と逞しく、保存会の方々が支柱を施し、施肥や草刈りなどを行い管理しています。

また、シダレザクラの花が咲く時期には、薄暮の時間から午後九時にかけてライトアップが行われます。

〈参考文献〉大子町教育委員会編『大子町の文化財（改訂版）』（二〇一六）

（山崎仙一）

編集 大子町歴史資料調査研究会

編集人 藤井 達也（大子町歴史資料調査研究員）

大金 祐介（大子町歴史資料調査研究員）

小松崎 研（大子町歴史資料調査研究員）

山崎 仙一（大子町教育委員会事務局）

大金真理子（大子町教育委員会事務局）

発行 大子町教育委員会

久慈郡大子町大字池田二六六九番地

☎ 0295（72）1148

発行日 二〇二六年（令和八）三月一日